

## 日本語を実際のコミュニケーションの媒体として学生に使わせる工夫 Classroom Activity Using Japanese as a Tool for Communication

ノンイマージョンのクラスで学習する学生は当然のことながら実際にコミュニケーションの媒体として日本語を使う機会が限られている。特に日本人学生の数が限られているだけではなく、ほとんどの日本人学生が英語と日本語のバイリンガルである本校では、たとえ上級（3年生のレベル）においても、学生にとって日本語はクラスで習う言葉であって、授業以外で日本語を通してコミュニケーションを図る為に用いることは稀である。学習した文法（並びに語彙、表現、文化情報）を実際に意思伝達や情報交換の手段として使うということは、すなわち知識を統合し、応用範囲を広げていくことになり、学習者はこの経験なしには上達できない。日本以外の国で日本語を教えている教師にとって、実際に日本語を使ってコミュニケーションができる場を授業の一環として与えることは、学生が自分の日本語を試し、日本語を使うことに慣れるために必要なステップである。本発表では上級レベルのクラスで行なっている統合アプローチ型の協働プロジェクト、「日本語の変化」に関する口頭意見調査について報告する。このプロジェクトでは、1) 学生はグループごとに現在の日本語の変化に対して何を調査したいか話し合い仮説を立てる、2) それに基づいた質問書を作成する、3) 日本人に直接またはスカイプでインタビューする、4) 録音したインタビューをトランスクリプトし、生データを作成する、5) 結果をまとめる、5) 発表するという流れになっている。本発表ではこのプロジェクトを通して学生が実地に得た調査結果並びに調査後の自己評価から、実践的な授業の重要性を述べる。